

作家・生物学者 畑正憲さん インタビュー

仙台市内で開かれた講演会の終了後、畑正憲さんの楽屋を訪問。動物との関わり、数えきれないほど訪れている海外、趣味の料理など、畑さんは終始マイペースで話してくれた。
(5面に関連記事)



1週間前にブラジルから帰国した畑さん。「今年はまだ、(家がある)北海道に帰っていない」という多忙な中、インタビューに対応してくれた

profile

畑 正憲 (はたまさのり) 81歳

1935年4月17日、福岡市生まれ。東大卒業後、学研で記録映画製作に関わり、その後作家として独立。動物との共棲(きょうせい)を目指して北海道に移住し「ムツゴロウ動物王国」を建国。テレビ番組「ムツゴロウと愉快な仲間たち」で一躍有名となり、世界中を旅し、さまざまな動物たちを見聞した。作家にとどまらず、映画監督、画家、ダイバー、棋士、草競馬騎手など幅広く活躍する。

楽しみ、悲しみ、大変なこと 全部ひっくりくるめて生きるのが好き

動物の秘密知りたい

「畑さんといえば動物をイメージする方が多いと思いますが、動物と関わるようになったきっかけは？」

自分が動物になりたいと思っただけです。犬になっちゃいたい。そうしたら、犬が自分たちの秘密を話してくれるんじゃないかと思っただけ。最初は秋田犬と一緒に暮らしまし

た。犬は日本語が分かるんです。

「そうそう、僕は象のおっぱいを吸ったことがあるんです。あれは面白かったですね。」

「世界各国を訪問して、特に気に入っている国や場所ありますか？」

「どこの国に行っても面白い。どこが一番面白いのかわかりませんね。」

「1週間前にブラジルから帰ってきました。親し

くしていた友人が他界したためです。日本人には一人も会わず、通訳も付

けずにね。ブラジルの片田舎の小さなホテルに泊まって、友人を見送って

きました。海外に行くのに体力、気力を使うと思いますが、

普段から健康面で気を付けていることはありませんか？」

「海外に行くとき日本より体力があるという人は、

海外に慣れていないから。まずはどこへ行って、

ちゃんと食事ができればいい。あとは早起きで動き回って、夜はいつも通り寝ればいい。どこへ行

っても、日本とほとんど変わらないんです。

「僕なんかはね、例えばブラジルだったらフェイジョンという豆料理を思い出しますよ。白いご飯に豆をかけて、刻んだ

野菜などを載せて、チリ

ソースで調味して食べる。こんなおいしいものはないです。現地の食事を普通に口にしますからね。」

長期滞在時は自炊

「趣味の一つが料理ですが、どんな時に料理をしますか？得意料理は？」

「プライベートでの長期滞在では台所付きのホテルを借りて、毎日現地のスーパーマーケットに行き、食材を仕入れて自分で料理します。何でも作るから、得意料理っていうのはないです。」

「北海道の家には女房がいるから、料理はお任せ。久しぶりに帰って、僕が料理するわけにはいかな

いでしょ(笑)。「食べるのが好きだし、そうなんです。」

「ただね、年を重ねた今はたくさん食べられない。例えば、コンビニのおにぎりは1回で1個食べられなくなりました。3回に分けて食べています。」

「サプリメントってあるでしょう。あれ、僕はど



「2017 いきいきシニア初春のつどい」で講演

うかと思っただけです。ピタミンCを取りたいからってサプリメントを飲むなら、野菜を食べた方がよっぽどいい。サプリメントに比べて野菜はたくさん食べなきゃいけない。無駄をしなきゃいけない。それが素晴らしいんです。その無駄が体に入ると、その中から必要なものだけ吸収してもら

うことが大切なんです。「好きな食べ物は？宮城はホヤやカキが特産です。ホヤは刺し身で食べますよ。焼いてもいいですね。パスタにしてもおいしい。カキは生のままで、バルサミコ酢をかけるとおいしいですよ。」

「作家や画家などさまざまな仕事をしながら、各地で講演も行う忙しさ。元気の秘訣(ひけつ)は？」

「生きていくのが好きなのかな。生きていくと楽しい。でもそれだけじゃなく、悲しいことも大変なこと多い。いっぱいあるじゃない。そういうのを全部ひっくりくるめて、生きているのが好きなんです。」